

リニアは夢の乗り物か？

ストップリニアニュース No.4

発行：リニア新幹線を考える相模原連絡会 2012.09.20

JRによるリニア中央新幹線説明会、橋本で開催される

JR東海と、リニア中央新幹線建設促進期成同盟会の共催による「リニア中央新幹線計画説明会」が、8月21日午後、橋本「杜のホール」でおこなわれました。

JR東海による説明では、建設目的として、①大規模災害に備え、交通の二重化をはかること②首都圏、名古屋、大阪の3大都市圏間のアクセスが飛躍的に便利になることをあげました。

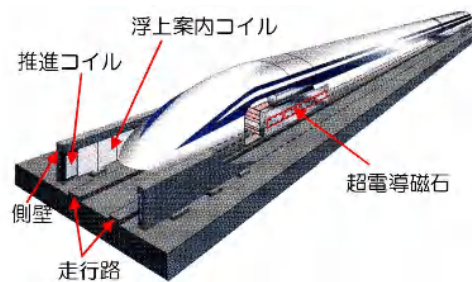
会場からの質問・意見（12人計90分）は、いずれも真剣なものでしたが、回答には首をかしげるような内容もあり、手をあげた人のほとんどが時間切れで発言できず、不満が残りました。

リニアの安全性は？

☆質問で目立ったのは、安全性と健康についてのものでした。

①地下を高速で走るの、これまでにない事故の恐れがある。想定外の地震がトンネル内で起きて、女性や年少者、お年寄りが取り残されたらどうするのか ②磁界の健康への影響が心配 ③トンネル出入り口付近の衝撃音・地上への振動は。

などさまざまな質問がされましたが、回答者から安全性の具体的な根拠は示されませんでした。



JR東海 環境影響評価書のあらまし

橋本に1時間に何本停まるの？

☆「神奈川県内の駅がなぜ橋本なのか。品川からわずか40キロ。何本も止まるわけではない」に答えて、期成同盟会は「橋本駅につくってもらえば在来線をつなげ、広域交通ネットワークができることで、経済効果がある」とし、別の質問者から、「経済波及効果が、1時間5本橋本駅に停車するとして見積もられている。JR東海は1時間に1本と言っている。過大予測ではないか」と質問されると、「期成同盟会としてはすべてのリニアを橋本駅に停車するようお願い」ということで5本停車の根拠があいまいなことが判明しました。

☆実際の走行について＜ピーク時電力が明かされていないこと＞＜3万3千ボルトの高圧線が必要。安全なら実測値を示すべき＞＜原発事故や原発由来の電力について＞への説明は、「磁界の影響はわずか。電気のことは、私たちの知るところではない」というもので、全くかみ合いません。

☆＜トンネル工事の残土処理＞については、「計画はできておらず、準備書で明らかにしたい」と言うにいたって、会場から、無責任ではという声が出ました。また、期成同盟会に対して、大事故への＜責任をとる覚悟＞を問う場面では「事故が起きないように安全対策をJR東海に要請し続ける」というだけ。＜相原高校＞については、「移転せざるをえない」と一転して、きっぱりした態度でした。

8月21日リニア中央新幹線説明会参加者の感想と意見

- 誠意の感じられない答えに、さらに疑問がわいてきた。説明会でなく、質問会を開くとよい。
- 平日の昼間では、参加できない人も多かったはず。日時を変えて複数回行うべき。
- 地元である橋本の問題について、具体的なことが何も語られなかった。がっかりした。
- 経済効果ということが強調されていたが、説得力がなかった。期成同盟は取らぬ狸の皮算用に陥らぬようにしてもらいたい。
- 県と市の代表の話を聞いて、自治体は、市民の安全をまもるべきなのに、その視点が欠けていた。
- 工事の難しさ以上に、走行時の安全にさまざまな不安要素をかかえているのでは、と思ってしまった。もっと、ひとつひとつについて、くわしく知りたかった。
- リニアの実相は、3.11を経験しておもい知った、人間のいのち優先の社会づくりとは、相容れない。
- 自然環境破壊について、何も触れられなかった。水や緑、私たちのふつうの暮らしを形作っているものが危うくされるのは、実感として困る。もちろん騒音や振動も町なかでは深刻だと思う。

発行者： 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本2-6-2 (TEL:090-4378-9257)

編集責任：中野渡旬 相模原市緑区東橋本3-19-8-309 (TEL, FAX:042-712-7077 mail:MHA01005@nifty.com)

リニアと相原高校

リニア中央新幹線中間駅誘致に伴って、県立相原高校の移転問題が浮上しました。

相原高校は、農、畜産、商、土木、造園等の専門家を育成する専門高校です。交通至便な橋本駅前にあることによって地域とつながり、様々な交流を生み出し、地元産業の活性化に力添えしてきました。

また、小学校や幼稚園などの子どもたちに、直接、土や生きものに触れる機会を提供しています。

市民にとっては、貴重な街中の緑を楽しみ、いざという時は、頼りになる広域避難場所でもあります。

なにより、肥えた土壌も、年輪をきざんだ樹木も一度失われたら元には戻りません。

大正11年設立、関東大震災の被災者へ援助をおこなう

8月20日、戸塚厚生さん（相高在職通算31年・現麻布大講師）に教えていただきました。県下有数の伝統校は、地元の熱意によって1922年創設し、守り育てられてきました。

大正11年2月、相原村「原清兵衛」さんほか20数名が「敷地寄付願」を村長に提出し、村議会がそれを受け、「村内誘致」を議決。6月に村議会は農蚕学校敷地および実習地の献納を知事に提出。村民一致での働きかけが実を結び文部大臣の認可がおり、わずか半年後には入学式を迎えられました。

そして2年目には、関東大震災が起こる。被災民救助のため、校長が引率する生徒自転車隊54名が横浜に向かい、野菜等およそ400キロを被災者に渡しました。

昭和初期には、校地に植林が盛んに行われました。風がふくと舞い上がる土砂に悩まされ、それを防ぐためでした。そうした努力の積み重ねで、今の豊かな土壌と緑濃い環境が作られてきました。

戦後の混乱を経て相原高等学校になりました。相原村民の思いを引き継いだ名称といえるでしょう。現在、特色ある学校として益々存在感を高めて、地域との交流は他の追随を許しません。

これまで何度かあった移転問題

相原高校の移転問題は過去何度か浮上し、市民の良識を鍛えてきました。

昭和48年、横浜線複線化の時に移転問題が浮上。しかしある市議が、「町なかに学校があってなぜ悪い。学校中心に町づくりを考えてもよいではないか」と言って移転は中止となったそうです。

参加者の感想のなかには、「駅前に学校があるのがよくないなら、駅前の補給廠はどうなのでしょう」というものもありました。

災害時広域避難場所として、防火帯としての相原高校

昨年の3.11の時は800人もの帰宅困難者を受け入れました。地域とともに歩んできた相原高校は、広域避難所としても役割を期待されています。いったん破壊された地域環境は元には戻りません。安易な移転計画にNOを突きつけましょう。(A・O)



近隣の小学校や幼稚園・保育園との交流が盛んです。

(やぎの飼育)

相原高校散策会と懇談会があります。-申し込み不要

(教育と緑ある橋本の町づくりを考える会主催) どなたでもご参加ください。小雨決行。

11月17日(土)10時から11時半、集合は、相原高校正門を入ってすぐ右
午後は希望者でおにぎりを食べながらおしゃべりしましょう。☆おにぎりは実費で用意できます。

活断層と変動地形 - 防災対策はいかにあるべきか

講師：渡辺 満久さん (東洋大学 社会学部教授)

大飯原発再稼働問題などでテレビや講演会など大忙しの渡辺先生に相模原で講演して頂く機会ができました。

【渡辺満久先生プロフィール】東洋大学社会学部教授。東京大学 理学系研究科地理学専攻博士課程修了。理学博士。専門は地形学(変動地形学)。

10月14日(日) 午後2時より
相模原市民会館大会議室(3F)にて



主催：リニア新幹線を考える相模原連絡会

連絡先：浅賀(090-4378-9257) 中野渡(042-712-7077)